

# 未来の自分をつくる

## 「めざす働き方」実践講座 Vol. 2



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アプレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

### めざす働き方を実現するために必要なこと

今回は、私たちの働き方に影響を与える世の中の変化について考えてみました。特に、2016年8月に厚生労働省がまとめた「働き方の未来2035」を例に出して、近未来の働き方はどのように変化するかを考察。そうした変化に対応するために「未来創造PT」で取り組んだことを解説しました。今号では、変化の激しい未来に向けたキャリア形成に求められる基本姿勢・スキルについて整理します。

#### キャリアを他者に任せるのではなく主体的に形成する時代がやってきた

前号で紹介した「働き方の未来2035」に描かれた姿が実現すれば、企業と働く人との関係は大きく変化します。

「時間や空間にしばられない働き方」が実現すれば、「プロジェクト単位で人が集まり、働くことが主流」になるのは自然なこと。「企業もそうした働き方を緩やかに包摂する柔軟な組織体になり」「正社員・非正規社員」「兼業や副業」といった区分そのものが意味をなさない社会になるのは容易に想像できます。

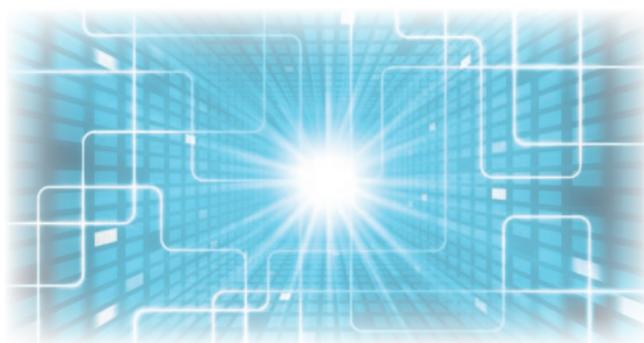
一方で、少子高齢化によって負担が増す社会保障費をまかなえるのか、また、AIなどの最先端技術が実際にどのような影響を与えるのかについては明確ではありません。「大きな変化」が訪れることは確実だとしても、どのような変化が訪れ、それが自分の生き方や働き方にどんな影響を与えるかを予測することは、非常に困難な時代を迎えているのです。

したがって、私たちに今求められるのは、自らが主体的にキャリア形成を考え、実践していく覚悟を決めることです。会社任せ、他人任せにせず、「めざす働き方」を自ら実現するためのスキルを身につけることなのです。

#### 「偶然を生かす力」で示された姿勢が未来を切り開くキャリア形成の基盤

以前、「GENKI」で連載した「キャリアデザイン講座」では、変化の激しい時代には「公式」と呼べるキャリア形成術はなく、むしろ個々のビジネスシーンで遭遇する「偶然」を生かして自らのキャリア形成につなげることが大事であると述べました。

例えば、イギリスのEU離脱やトランプ・アメリカ新大統領が誕生するなど、大方の予測を覆す出来事が次々に起こっている今、先行きの不透明感はますます強くなっています。私たちは、これまで以上に新しい環境を先取りし、新たな変化を自らのキャリアに活用していく力を育んでいくことが望まれるでしょう。



偶然を生かす力とは、「ブランド・ハップンスタンス理論」にもとづくもので、「キャリアの8割は偶然によって決定される」ことを前提としています。右肩上がりの経済成長の時代においては、過去の成功体験に準拠したキャリア形成が可能でしたが、グローバル化、IT化がすすんだ現在、普遍的な成功体験を求めることはできません。むしろ、日々発生するビジネス体験から学び、自分のキャリアにしていくことが重要で、「ブランド・ハップンスタンス理論」が示す次の5つの力を基本姿勢として身につけることが求められます。

1. 好奇心

- ・現状に満足せず、常に新しい価値を求める気持ち
- ・実行力、情報収集力、状況の変化を把握する力

2. 柔軟性

- ・固定観念にとらわれず、複眼的に物事を見て課題を発見し解決する力
- ・人の話を傾聴する力、違いを理解し対応する力

3. 楽観性

- ・プラス思考で物事を考え、前向きに判断できる力
- ・失敗から学びとれる力、ストレスを統制できる力

4. リスクをとる姿勢

- ・リスクや初めてのことにチャレンジできる力
- ・失敗したときに自分に原因があるとして物事を追求できる力

5. こたわり

- ・物事を追求し考え抜く力、行動を継続する力
- ・他者に働きかける力、自分の言動を内省できる力

人間は、未知なことに遭遇すると、不安を感じ、臆しやすくなります。しかし不透明な時代においては、初めての事象に遭遇することも多いのです。たとえリスクが想定される場合でも臆することなくチャレンジしなければチャンスをもつてできません。

また、何がチャンスなのかを把握するには好奇心を持って社会の動きを見ることが大切で、日々の業務遂行も固定観念にとらわれず、常に前向きな姿勢で臨むことが大切です。

ただし、柔軟であること・楽観的であることと、物事を表面的・安易に考えることとはイコールではありません。ビジネスパーソンとして何を求められるのか、またそれ以前に、自分はどのような生き方・働き方をしたいのかを考えていく姿勢が大切です。

偶然を生かす力とは、そうした私たちがめざす働き方を実現するための「基本姿勢」であり、あらためてこの5つの力を向上させる術を身につけるべきです。

## 社会の変化と自分らしさをマッチングさせた働き方を追求するスキルが必要

「偶然を生かす力」は、先行き不透明な時代にキャリアを形成するための基本姿勢ですが、社会の動向を的確に把握し、何が好機なのかを把握できなければ、生かすべき偶然に遭遇することすらできません。めざす働き方を実現するためには、次のような「環境変化を見据える力」を身につけることが大切です。

1. 社会に影響を与えそうな新たなヒト、コト、モノ等に関する情報をキャッチする力
2. 自分が働いている業界や仕事内容に影響を与えそうな新技術や商品、サービス等をキャッチする力
3. 自分の顧客や取引先の最近動向や変化の兆しをキャッチする力
4. 自分の日常業務に関する最近動向や今後の方向性をキャッチする力
5. 自分の日常業務に関するちょっとした変化に気づく力

「社会の変化」「業務の変化」「顧客の変化」などに気づくことができれば、近い将来、何にチャレンジすれば社会や顧客が求めるビジネスパーソンになれるのか、といった方向性が見えてきます。また、時代のトレンドを押さえながらキャリア形成を重ねていけば、身につけた知識やスキルを生かす「場」も増えるでしょう。

ただし、社会や顧客の変化に対応することばかりを考えて、自分の得意なことや長所を生かすことができなければ、仕事に対するモチベーションは向上しません。ましてや、時代の要請だからといって自分の価値観に反することをやらされたのでは、ストレスが増えるだけですし、自分らしく働くことはできません。大切なのは、時代・社会の変化を見据えつつ自分自身の価値観や行動特性を掘り下げていくこと。社会の変化に合わせるだけでなく、時代・社会のニーズと自分の価値観のマッチングを図りながらキャリア形成を図っていくことなのです。

次号からは、こうした認識のもと、社会の変化と自分の価値観をマッチングするためのスキルを解説していきます。

